

4

将来都市構造

緑に囲まれた環境をもつ市街地の都市構造

■ 北ひろしまの都市構造

本市は、J R千歳線のほか高速自動車道、国道、道道などの広域的な交通網が市内を縦横断しています。

市街地の形成は、同心円的な広がりをもつ市街地ではなく、これら鉄道、道路の沿道に樹林地や農地などの緑によって囲まれる形で5つに分かれており、それぞれが特性をもつ生活圏を形成しています。

■ 市街地形成の考え方

これまでは、急速な都市化の進展に対応し、計画的な市街地の拡大により整備を進めてきましたが、今日では人口や産業規模の増加はゆるやかになってきており、既成の市街地内においてもまだ利用されていない土地が散在しています。また、地区の中心となる核が明確になっていない地区や日常生活に必要な機能が十分ではない地区もあるため、必ずしも利便性の高い都市とはなっていません。

人口の増加や住まい方の変化に伴う住宅需要、事業系の土地需要などに対しては、既成市街地の低・未利用地*の有効利用、駅周辺の利便性の高い場所における土地の高度利用などによって市街地の拡大を抑制し、既存の都市基盤を活かしたコンパクトな市街地形成*を図る必要があります。

コンパクトな市街地を形成することにより、身近に感じることができる市街地周辺の豊かな自然や農地を保全することができます。また、それぞれに一つの生活圏として地区の特性をふまえた基礎的な機能の充実を図ることにより、車を使わなくても歩いて商業施設や公共施設などを利用しや

すい環境がつかれます。

さらに、自然や歴史、文化などの地区の個性を高めながら、相互に補完し合い、交流を深めるため地区間のネットワークを強化し、市街地を取り巻く豊かな自然環境や農地と調和した都市を目指します。

都市づくりの理念・目標を実現するため、将来の都市構造を土地利用、都市の軸線、拠点地区・核地区という設定のもとに、それぞれが適切な土地利用、環境と調和のとれた良好な都市環境を形成します。

(1) 土地利用

日常の生活圏を考慮した3地域5地区の市街地からなる都市地域、市中心部にある広大な国有林をはじめとする森林や市街地周辺の樹林地からなる森林地域、食糧生産や国土保全など多面的な機能をもつ農業地域が調和した都市づくりを進めます。

① 都市地域

- 緑に囲まれた各地区の市街地環境の質を高めるとともに、個性ある快適な都市環境の向上を図ります。
- 各地区形成の歴史や地理的条件、施設立地の現状、新たな土地需要などを考慮しつつ、住宅・商業・工業・その他の都市機能を適切に配置し、各地区を生活単位とした必要な機能を整え、それらが集合体として発揮する都市機能を高めていきます。

*低・未利用地

利用がなされていない土地、又は立地条件からみてその利用形態が社会的に必ずしも適切でない（低位な）土地。

*コンパクトな市街地

市全体からみて市街地を集中的にまとめるのではなく、5つに分かれている市街地を適切な規模に設定し、集積を高めることにより広がりを抑え、利便性の高い市街地を形成するという考え方。

②森林地域

- 都市構造の骨格を構成している森林やまとまった樹林地は、将来にわたって良好な都市環境を支える緑空間として、現世代そして将来の世代に共通の大切な財産として保全を図っていきます。
- さらに、地形や河川、道路などを活用するとともに新たな緑空間の創出を図り、身近な緑に囲まれた市街地という構造特性を一層魅力あるものとなる取り組みを進め、市の木・市の花*を活かしながら、緑に特色をもつ北ひろしまらしい“都市と自然の共存関係を保つ環境”の形成を図ります。
- 市の中心部にある国有林などを核として、その周辺の緑につつまれた空間を「(仮称)交流の森*」と位置づけ、地区間の連携機能はもとより、心豊かな人びとを育む緑の交流空間として活用を図ります。

③農業地域

- 農地は食糧生産や環境保全、景観形成、国土保全など多面的な機能をもつことから、都市づくりに積極的に活かすなど農業施策との連携を図りながら、都市と調和した農地の保全を図ります。

(2) 都市の軸線

①交通軸

【広域交流軸】

- 道内有数の幹線鉄道として大きな輸送機能を有するJR千歳線、道内を縦断し高速交通ネットワークの基軸となる道央自動車道、古くから沿道に市街地が形成され、現在も交通量が多い国道36号、国道274号、道道江別恵庭線の3路線、および羊ヶ丘通を市内外の人びとの交流を支える広域的な交流軸と位置づけ、周辺市町や本市の地区間の連携強化に活用します。

【地区交流軸】

- 各地区から交流の森に至る道道栗山北広島

線、市道大曲東通線、市道輪厚中の沢線などを地区間の人びとの交流を促進する軸線と位置づけ、公共交通の充実や自動車、自転車での円滑な移動、歩行者の安全などに配慮した交通・道路環境の整備、充実を図り、各地区間の連携強化に活用します。

②緑の軸

- 野幌森林公園から国有林、南の里の森、仁別・三島の森へと南北方向に連なる緑空間を、都市構造上の骨格軸を構成する緑の軸として位置づけ、保全、育成していきます。

(3) 拠点地区・核地区

- JR北広島駅周辺は商業・文化・住宅など多様な都市機能が集積しており、交通の利便性も高いことから、本市の中核的な拠点地区と位置づけ、本市の顔づくりを進めます。
- 5つの地区ごとに商業・業務施設や文化施設などを中心とする核を位置づけ、既存機能の強化や新たな機能の創設により、地区の住民や情報が集まる地区の核づくりを進めます。

*市の木・市の花 市の木は「かえで」、市の花は「つつじ」で、ともに昭和49年7月に制定された。

*交流の森 各市街地に囲まれた市の中心部にある国有林などを活用し、自然や文化をテーマとして各地区の連携や市民・市外住民との交流を図ることを目的とした空間。

第2章 | 都市づくりの理念と目標

将来都市構造図

